

東区の「掩体壕」解説

市民団体がリーフレット 熊本市に贈る



リーフレットを大西一史熊本市長(左)に手渡す「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」の高谷和生代表＝熊本市役所

熊本市東区戸島本町で昨年、旧陸軍健軍飛行場の施設「掩体壕」を調査した「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」(高谷和

生代表)が結果をまとめたリーフレット7千部を作製。3月29日、市立小中高校配布用の300部を市に贈った。

A4判見開き3ページ(カラー)で、太平洋戦争後期に、戦闘機などを空襲から隠すため滑走路に周辺に多くの掩体壕が作られたことを紹介。戸島本町の壕については、昨年の調査で見つかった、木製の屋根で覆われていたことを示す柱穴や鉄くぎの写真を掲載した。

東区一帯に広がる健軍飛行場から特攻隊が沖縄へ飛び立っていた事実などを、当時の航空写真などを使って解説している。

同日、市役所で高谷代表が大西一史市長に手渡し、「平和教育などに活用してほしい」と述べた。リーフレットは同日から中央区大江の市立図書館で、一般向けに配布している。(堀江利雅)